

9月13日（土）午後

<p><b>NK 13:30～16:50</b></p>	
<p><b>NK③「心理面接の基礎」(60分)</b></p> <p>心理面接は、様々な領域で行われ、その領域に適した面接技法が用いられています。しかし、その基本であるラポールや共感的理解や面接場面（面接室・面接時間・面接者の態度）の設定の重要性は誰もが認識しています。また、日常臨床で使っている言葉について考えることも重要です。今回は、キーワードを「考える」として、参加者が自分の面接を振り返る機会としたいと考えます。</p>	<p>松下 博（神奈川県スクールカウンセラー）</p>
<p><b>NK④「描画による心理アセスメントの基礎」(60分)</b></p> <p>1. 描画の基礎概論</p> <p>1) 描画テスト { 心理アセスメント（心理査定）                           { 投影法</p> <p>2) 描画療法 { 心理療法                           { 芸術療法</p> <p>2. 描画による心理アセスメント</p> <p>1) 描画によってアセスメントできること</p> <p>2) 描画テストの種類</p> <p>3) 描画法の選択</p> <p>4) 解釈</p> <p>★描画実習（S-HTP,DAM）</p> <p>3. 実際の使用例</p> <p>1) 模写や再生：ベンダーゲシュタルト・テスト</p> <p>2) 絵画完成法：ワルテッグ描画テスト</p> <p>3) 課題画： 樹木画テスト（バウム・テスト）</p> <p style="margin-left: 150px;">{ 人物画           { 家族画                   { HTP法、S-HTP法</p> <p>4. 実施にあたっての注意点</p>	<p>鈴江 毅（山陽学園短期大学・山陽学園大学）</p>

<p><b>NK⑤「描画による心理面接の基礎」(60分)</b></p> <p>心理面接で描画を活用することは、面接の流れを汲み、また展開させるうえで非常に有益である。一方で、描画の導入の方法は多様であり、面接者の「描画」への意味づけによっても異なってくる。本講義では、心理面接の中で描画を導入する際の方法を概観するが、(1) テストとしての描画、(2) 療法としての描画、(3) 儀式としての描画、(4) 非言語的コミュニケーションとしての描画など、幅広い観点から講義していきたい。</p>	<p>藤掛 明 (聖学院大学)</p>
<p><b>NO 13 : 30~16 : 40</b></p>	
<p><b>NO②「描画による心理アセスメントの事例検討」(120分)</b></p> <p>本研修では、認定描画療法士資格取得者を対象に、HTPP (HTP) テストや家族画テスト (FDT、KFD) などの描画テストを用いた心理アセスメントについての事例検討を行う。面接や生活史などの情報も参考にしながら、絵の解釈の妥当性や所見への掲載内容について検討する。また、アセスメントの結果をカウンセリングなどの支援にどのように活用するのかについても、参加者間の討議を交えながら実践的な検討を行う予定である。</p>	<p>寺嶋 繁典 (関西大学)</p>
<p><b>NO③「描画による研究法」(60分)</b></p> <p>描画による研究法の1つは質的研究/事例研究である。描画は個人の文脈のなかで詳細に分析され、さらには個人を超えた普遍的な意味が見出される。一方で、描画の発達や臨床群の特徴を知るためには、多数の描画を分析する数量的研究が必要となる。しかしながら、1枚の絵に多くの情報が含まれる描画を数量的に分析することは容易ではない。今回は、描画というデータの特徴について、また目的に合った研究法の選択について考える時間としたい。</p>	<p>馬場 史津 (中京大学)</p>
<p><b>W5 - W8 各々14 : 00~16 : 30</b></p>	
<p><b>W5 「HTPP テスト」</b></p> <p>描画テストにはさまざまな種類があり、とらえたいパーソナリティの側面によって、課題が選ばれる。その中で、パーソナリティを多面的にとらえたいときには、家、木、人を4枚の用紙に描くHTPPテストが用いられる。複数の課題の描画を組み合わせることで解釈していくことから、クライアントが抱えている自己像、対人関係のあり方、家族への認知などが明らかになる。今回は、これから描画テストを臨床場面で用いたいと思っている初心者や他職種の専門家向けに、HTPPテストの基礎的な実施法と解釈法について解説したい。</p>	<p>高橋 依子 (大阪樟蔭女子大学)</p>

<p><b>W6 「動的学校画」</b></p> <p>動的学校画は学校（幼児では保育所、幼稚園）場面で先生と友人と子ども本人とを入れた動きのある活動を描きます。このワークショップでは幼児から中学生までの問題行動や不登校などの不適応状態や発達障害の子どもが集団場面での気持ちを動的学校画にどのように表現するかについて、その見方や解釈のポイントを事例から学びます。他の心理テストや描画法に動的学校画を併用するとアセスメントやその後の子どもとの関わりにも有効であり、実施の要点も解説します。</p>	<p>武藤 久枝（中部大学）</p>
<p><b>W7 「心理療法場面における描画の活用」</b></p> <p>昨年は、心理療法における描画法の基本的な特徴について概観し、ミニワークと事例の紹介をしました。今年は、別の事例を紹介しながら精神病理と描画という視点から学びを深めたいと思います。心理療法場面において描画を取り入れる場合、セラピストもクライアントもさまざまな工夫を思いつき、次第に描画の持つ力と意味を発見していきます。今回は、これらのプロセスに関しても多少の分類と考察を試みたいと考えています。</p>	<p>寺沢 英理子（札幌学院大学）</p>
<p><b>W8 「交互色彩分割法」</b></p> <p>自閉症スペクトラム、愛着スペクトラムという視点から診断や関与が行われることが多くなった。利用者は交互色彩分割法のなかで分割線、分割面彩色をどのように表現するのだろうか。治療者の描線や彩色のなかでどのような作品ができあがるのだろうか。「共感性」や「安全基地」の問題を有する場合に、どのように治療者は関わることができるのだろうか。当日は実技を入れながら、交互色彩分割法での臨床の基礎と応用について述べていきたい。</p>	<p>志村 実夫（小郡まきはら病院）</p>